

浜 松 市 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開催日時 令和7年7月24日（木）
14時00分～14時30分
- 2 開催場所 イーステージ浜松オフィス棟6階
教育委員会室
- 3 出席状況

教 育 長	野 秋 愛 美
教育長職務代理者	黒 柳 敏 江
委 員	田 中 佐和子
委 員	神 谷 紀 彦
委 員	鈴 木 重 治
委 員	下 鶴 志 美

 (職員)

学校教育部長	吉 積 慶 太
学校教育部次長（教育総務課長）	鈴 木 健一郎
学校教育部次長（教職員課長）	池 沼 光 徳
学校教育部参事（教育総務課）	鈴 木 公 一
教育センター所長	青 島 治 道
市立高等学校校長	宮 崎 正
市立高等学校事務長	夏 目 健 一

 (事務局職員)

教育総務課専門監	川 副 哲 士
教育総務課副主幹	澤 木 翔
教育総務課主任	藤 井 美 希
- 4 傍聴者 2名
- 5 議事内容 別紙のとおり
- 6 会議録作成者 教育総務課 藤井 美希
- 7 記録の方法 審議事項について発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

(教育長) 令和7年7月24日の浜松市教育委員会を開催する。

傍聴についてはどうなっているか。

(事務局) 2人から傍聴申込をいただいている。

(教育長) 許可するということによろしいか。会議途中でも申し出があれば許可することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) 許可する。

(教育長)

本日の会議録署名人は、神谷委員と鈴木委員にお願いする。

会期は本日限りである。

本日は、議案が2件、報告が1件である。

最初に、第41号議案「令和8年度使用浜松市立小・中学校教科用図書の採択について」教育センターから説明をお願いします。

(教育センター) 第41号議案「令和8年度使用浜松市立小・中学校教科用図書の採択について」説明する。

令和8年度においては、静岡県教育委員会義務教育課より教科用図書採択の基本方針が示されている。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条並びに同法施行令第15条の規定により、令和7年度用と同一の教科用図書を採択するものとされている。

したがって、小学校は、令和7年度に使用している教科用図書と同一のものを使用することとなる。小学校は、令和5年度に採択を行い、令和6年度、令和7年度の2年間、一覧にある教科用図書を使用しているところである。

同様に、中学校も令和7年度に使用している教科用図書と同一のものを使用することとなる。中学校は、昨年度採択が行われ、今年度から一覧にある教科書を使用し始めたところである。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、小中学校の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。令和8年度の教科書については、別紙の通り、令和5年度6年度に採択し、今年度使用している教科書と同一のものを採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。

次に第 42 号議案「令和 8 年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について」市立高等学校から説明をお願いします。

(市立高等学校事務長) 第 42 号議案「令和 8 年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について」説明する。

高校における教科書の採択方法であるが、文部科学省検定済み教科書の中から採択することとなっている。普通教育に関する教科については 9 教科が採択の対象となる。

また、市立高校の教育課程の編成、生徒の能力・適性・進路等を考慮し、適正かつ公正な採択を行うこととなっている。

本校では、採択手順として、各教科会において教科書の比較検討を 5 月 10 日頃から始め、内申教科書の選択を 6 月 14 日を目途に行っている。その後、管理職、教科主任、教務課担当の計 14 名で構成される教科用図書採択委員会において、各教科から示されたものを確認、検討し、その中から内申教科書を選定している。

令和 8 年度については、理科の化学科目で 3 冊、芸術の書道科目 1 冊について、異なる出版社の改訂版を新たに選定したため、これらについて説明する。

理科については、2 年生の文系理系ともに使用する化学基礎、同じく理系の化学について、昨年度採択した数研出版から東京書籍に変更するものである。教科書を変更する主な理由は、表記が見やすく、生徒が内容の把握が容易にできる、要点がコンパクトにまとめられており、重要事項の理解を助けていること、また、適切な難易度の練習問題が多く、理解の深化に資しているためである。さらに、目次にまとめられている QR コードから問題解説の動画や実験動画を視聴できたり、プリントをダウンロードできたりするなど、生徒の学習に配慮された構成となっているため、選定した。

次に、芸術であるが、書道 I について、昨年度採択された教育図書から、新たに光村図書のものを選定した。教科書を変える主な理由は、細部まで鮮明な作品写真が掲載されており、実技・鑑賞両面で生徒の知的好奇心を引き出す工夫がされていることや、具体性のある詳しい解説により、探究的に学習が進められるような展開で、本校生徒の実情に適していると判断したためである。

その他の教科については、昨年度採択いただいた教科書を継続、また同じ出版会社の改訂版を選定しているため、説明は省略する。

(市立高等学校校長) 補足する。机上有る書道の教科書は、今回選定したものである。今年度使用しているものは 2 分冊となっているが、来年度から 1 冊に統合される。来年度以降使用する教科書として現行のものと比較して、今回選定したものの方が良いと判断したものである。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(下鶴委員) 他の進学校がどの教科書を使用しているのかなどの情報交換は行っているのか。

(市立高等学校校長) 情報交換についてはわかりかねるが、今回の採択にあたっては、本校生徒の理科（化学・物理・生物）の学力が近隣の県立高校に比べて高いというデータがあるため、現在使用している教科書よりも一段階高度な思考力を求めるような教科書を選定している。加えて、化学基礎の教科書は、理論編と物質編に分かれており、それぞれ2年、3年で使用する。現行で使用しているものは1冊にまとまっているため、扱いやすさという点においても今回選定した教科書は優れている。

(下鶴委員) 教科の専門性の高い教員が生徒の実態に見合ったものを選定していることがわかった。

もう1点、社会科において地理総合、歴史総合など「総合」と名のついた科目があるが、これはこういった狙いがあるのか。

(市立高等学校校長) その科目のみならず、関連する分野也多岐にわたって学習する狙いがあると思われる。例えば、防災の分野も教科の中に入らないように思われるが、総合とすることで、防災も学べるようになっている。

(神谷委員) 世の中の傾向として、理系に進む方が少なく、医療分野以外の理系人口が少ない。物理や数学を敬遠して安易に文系に進む方も多いと思われるため、学校の授業の補講を行うなど手法はいろいろあると思うが、理系の希望者を増やすとともに優秀な人材を育てていただきたい。

(市立高等学校校長) 本校の現状について補足する。本校では、2年生から理系と文系に分かれるが、2年生の理系が161名、文系Ⅰが10名、文系Ⅱが200名、3年生は、文系ⅠⅡ合わせて207名、理系が153名で、やはり文系の方が多い。

教育課程であるが、文系であっても基本的には生物基礎と化学基礎は必修としている。また、理系の場合は、2・3年生において、物理を必修とはせず、物理又は生物のどちらかを選択する形となっている。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) 質疑を終了して採決に入る。

令和8年度の浜松市立高等学校の教科用図書について、説明のあった化学基礎の1冊、それから化学の2冊及び書道の1冊は内申資料にある教科書を採択し、その他の教科書については、今年度使用している教科書と同一のものを採択するという事によってよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。

次に報告事項に移る。

(報 告)

ア 特定管理監督職群の指定について (教職員課)

(教育長) 以上で本日の教育委員会を終了する。

教育長

9 会議録署名人

神谷委員

鈴木委員